

R2.8.4(Tue) 5校時 1年2組 マット運動



令和2年度国立教育政策研究所（文部科学省）教育課程指定研究の2年目がスタートしました。「主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善」を研究主題に、今年度は感染症対策等も考えながら実践に取り組んでいます。今回は、市教育委員会指導主事、中学校保健体育科研究会会長、小学校保健体育科研究会会長、学・体推進教員の4名に参観していただき、指導助言をいただきました。授業を参観していただいた先生方、準備を手伝っていただいた先生方、ご協力ありがとうございました。

1 器械運動（マット運動）1年2組実践

1年生、器械運動（マット運動）の実践でした。本年度も生徒の主体性を重視した学習活動を展開するための手立てとして、①学習過程の検討、②運動が苦手な生徒への意欲喚起、③ICTの活用、④ユニバーサルデザインの視点を取り入れました。



運動が苦手な生徒への手立てとして用いた「できるポイントファイル」活用や、掲示物を見ながら練習する姿が多く見られました。また、よい助言を行っている姿を撮影し、テレビで全体に共有したり、タブレットの追っかけ再生機能を使って自他の動きを捉え直し、課題を見つけたりする場面でICTを活用しました。本年度は、感染症対策として、気付いたポイントを付箋に書いて掲示し、仲間と伝えあいながら練習に取り組むことができました。

2 今後の実践に向けて

実践後、オンラインでの協議会を行いました。協議会には、桐蔭横浜大学佐藤教授、北九州市教育委員会指導主事にも参加していただき、「授業設計力」「授業実践力」「リフレクション」の3つの視点で指導・助言をいただきました。「授業設計力」では、12年間を見通して各単元を中学校3年間の指導計画にどう位置づけるのか、また、単元時数の妥当性や、学習活動と評価の関連について助言をいただきました。また、「授業実践力」では、マネジメントの工夫や、ねらいに迫るための発問の工夫、コロナ禍で対面での話し合い活動ができない今、タブレット端末をどのように活用するか、今回の授業での深い学びの姿とは何か、評価するためのポートフォリオは、といった点が議論になりました。「リフレクション」では、生徒が授業を振り返る場面での、授業のねらい（めあて）に沿った教師の発問についてご指導いただきました。協議会での指導・助言をもとに10月8日に行われる保健分野での授業実践へ繋がりたいと思います。

